東シナ海の雲

宮之浦岳・開聞岳登頂記

その・2

大根田元男

原生林の古代ヤクスギ帯を歩く

第2日目　　4月30日（金）　晴れ

起床 3:30/5:00⇨白谷雲水渓入口 5:42/6:00～辻峠 7:20/7:30～小杉谷分岐 8:06～大株歩道入口9:36～翁杉 9:50/9:58～ウィルソン株 10:02/10:10～大王杉11:04 ～縄文杉11:40/12:00 ～旧高塚小屋12:15 ～旧高塚小屋13:20 （泊）

CL・アルコール隆徳	（52）	やっぱり縄文杉は凄かった。とても良かった。
記録・公爵（講釈）元男	（62）	ヤクスギの大木群、見応えあり。
装備・シーラーカンス勝己	(31)	ヤクスギに感動。神妙な気分になった。
医療・縄文杉八千代	（61）	ヤクスギも山も素晴らしい。
SL・ビッグホーン秀子	（50）	悠久の地に迷い込んだ不思議な感覚を味わった。
食料・日の出の博子	（50）	歴史を刻む杉の大木はどれをとっても見応えあり。
食料・カメレオン依代	（52）	名ある杉に感動。
会計・ウルル歌子	（55）	ヤクスギの素晴らしさに感激。

島には一月に３５日雨が降ると小説（浮雲）に書かれ、有名な言葉になった程雨の多い島と聞いていたので、３日間のうち２日位は雨に降られる事を覚悟して雨対策を万全にしてリュックを宿に発送しておいた。週間天気予報を見ていると山行間、屋久島方面は好天気の予報になっており安心する。

宿を予定より時間を早めて出発。登山口迄はタクシーを利用。車から見る上屋久町迄の平坦な道路両側は亜熱帯性常緑広葉樹が生い茂り、ハイビスカス・グンバイヒルアサガオ等の花が咲いていたり、コスラヤシがあり南国の雰囲気が感じられた。白谷川を左に見ながらカーブの多い道を車は登っていくが、この付近は植林された杉で大きくはない。全般にズングリモックリの感じの杉である。サトイモの葉に似たクワズイモ、世界最大のシダ・ヘゴの大きく葉を広げているのが時々見られた。

裾野麓山登念記

白谷雲水渓入口には広い駐車場があり、立派な案内小屋も建っていたが早朝の為戸が閉まっていた。白谷雲水渓は花崗岩の川床で急流になっている為、大きい岩から落下する水は白い飛沫となって綺麗である。川沿いの遊歩道が登山道で石畳、板階段とよく整備された苔蒸した緩い登り道がさつき橋まで続く。橋を渡りきると登山道らしく急で狭い道になってきた。

西側には江戸時代の頃、伐採されたと思われる大きい古い切株跡が多くあり、株の中心は空洞のようで全部凹んでいる。朽ち果てた倒木も見られる。白谷山荘は道から少し離れた所にあり、テントも張られていた。岩と木の根上を踏んで登っていく。杉、モミ、ツガ、ウラジロガシの大木、苔むしている樹には宿り木と共存していて、深山に入っているとの感じを受ける。

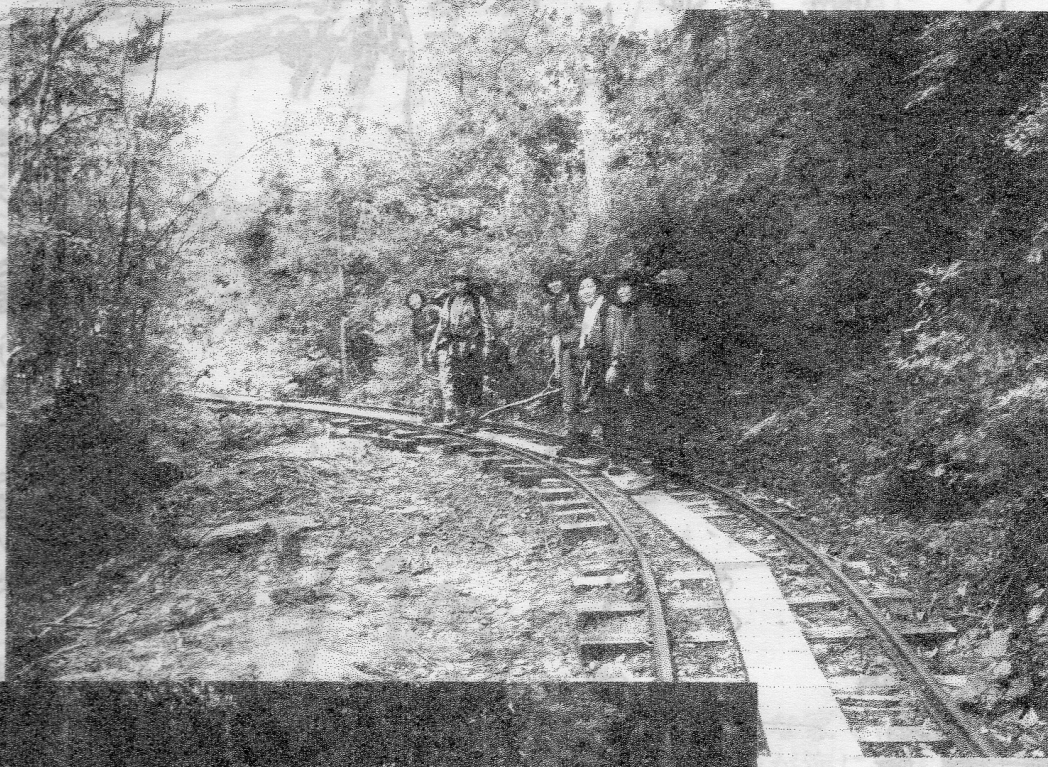
辻峠に着く。此処にも大きな切株がある。一休みしていると、ヤクシカ親子が薄暗い森の中に現れた。ビッグホーン秀子が声を掛けながら、写真を撮る為近ずいた所、少し離れた所に移動してしまった。峠より標高差 250m の下りになり、少し下ったら辻の岩屋。（石の上に大きい平たい石が乗っていて庇になっている）

途中で、木の間から宮之浦岳が見えた。二代杉を過ぎ、軌道のある小杉谷分岐に合流。軌道上には板が乗せてあり歩き良い。軌道に入ってから、案内人つきのツアー登山グループが何組もいた。この人達は楽に来る事ができる。荒川口からの登山者で軽装備で入って来ている。

三代杉を過ぎ、大株歩道入口迄は軌道上歩き。渓谷からはゴーゴーと急流を流れる水音が聞こえてくる。生い茂った木に遮られ谷底は見えない。翁岳の尖った山頂が見えた。以後、新高塚小屋までの間山の頂きは見る事はなかった。大株歩道入口からは、急坂でハシゴ、大石の間、木の根に掴まりながら歩く。未だ、切株、土埋木が見られ原生林で杉の大木が連立している。

翁杉は老木といった感じで木に勢いがない。上の方に葉が少しあるだけで、樹には小さい色々な木が付着していて、名前どおりといった木である。この辺から縄文杉までと思われる登山者を多く見かけるようになる。

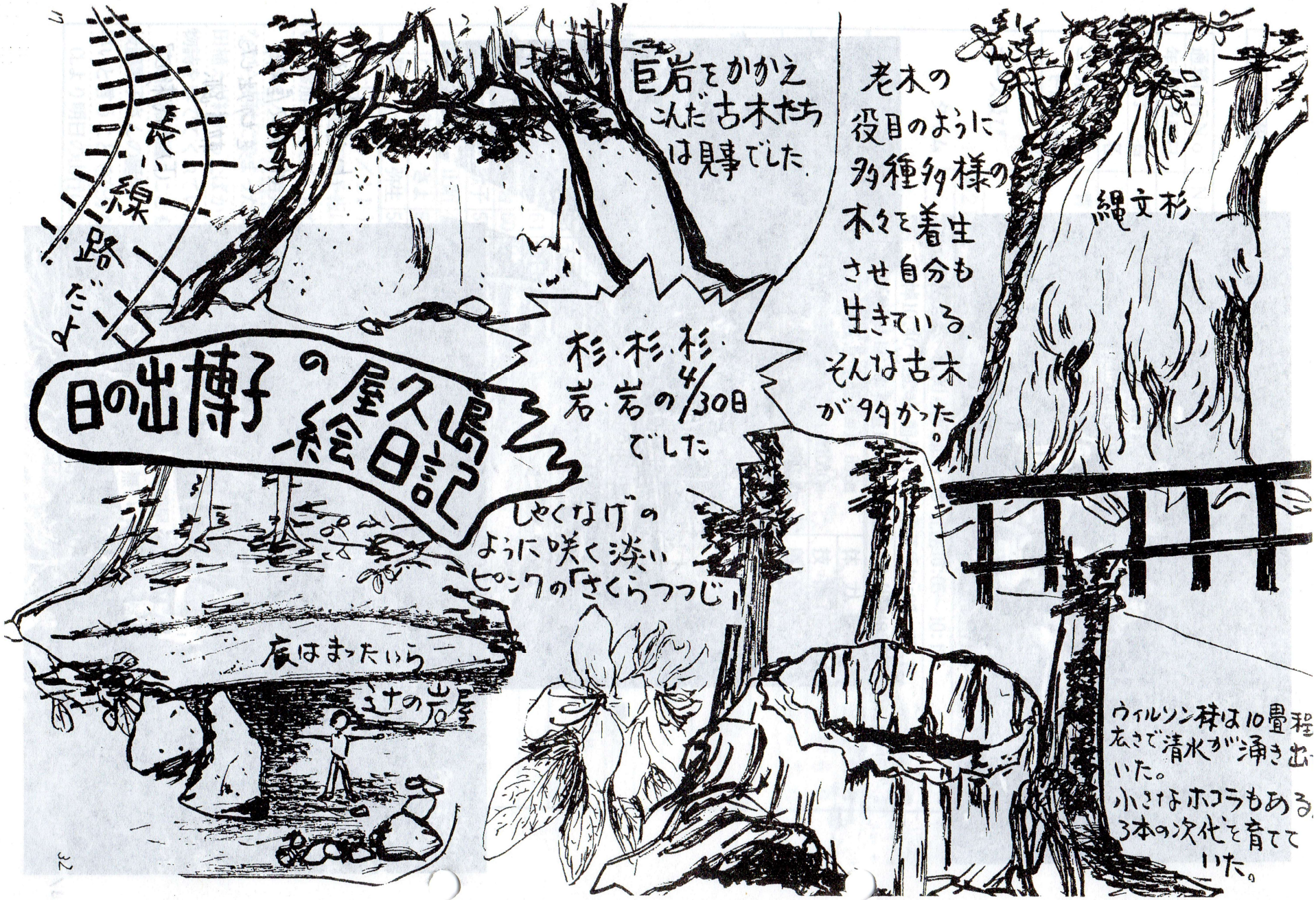
ウィルソン株は、人気があるようで人が多かった。株の中は、畳１０畳敷ほどの広さとの事で祠もあり、岩の間からは清水が湧いていて小さな流れになっていた。今残っているヤクスギの大木は中身が空洞か、コブになっていたり、良い材質にならない物が取り残されているとの案内人の話でした。其れでも、まだヤクスギの大

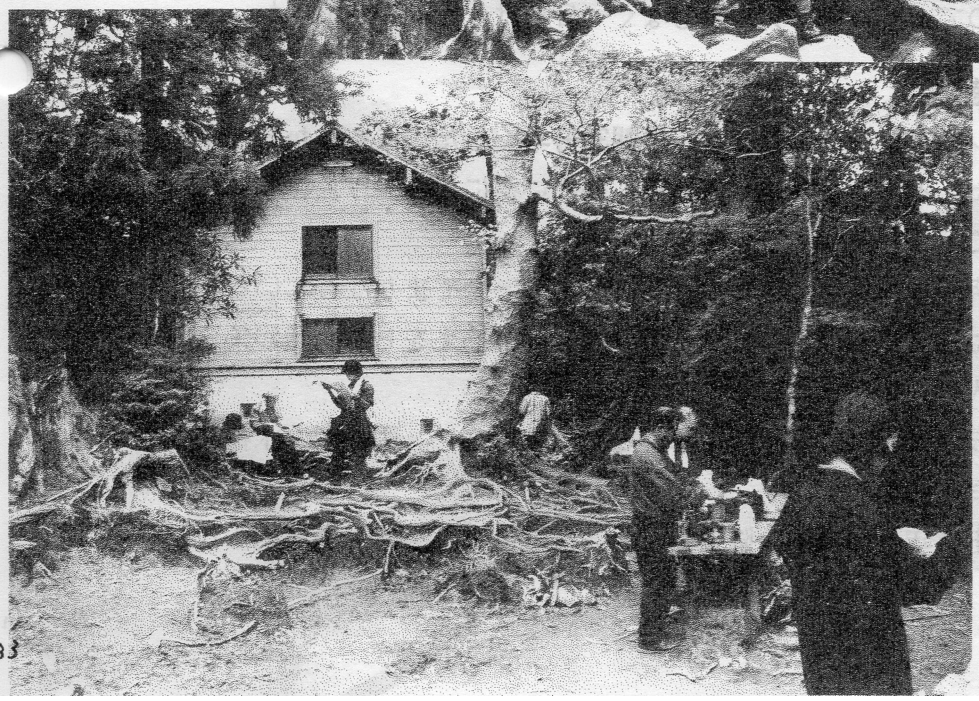


(上) 辻峠にて

(中) かって屋久杉を切り出した軌道跡

(下) 三代杉にて


日の出博子の屋久島絵日記
長い線路だよ
巨岩をかかえこんだ古木たちは壮観でした
杉・杉・杉
岩・岩の4/30日でした
老木の役目のように多種多様の木々を着生させ自分も生きている。そんな古木が多かった。
縄文杉
しゃくなげのように咲く淡いピンクの「さくらつつじ」
底はまったいら
さけの産屋
ウィルソン株は10畳程広さで清水が涌き出ていた。
小さなホコラもある。3本の次代を育てていた。



(上) 安房の案内人
泊 隆章さん

(中) ウイルソン株
見よこの大きさ!

(下) 新高塚小屋
㊙ あり

木がたくさんあった。大王杉、夫婦杉を過ぎると立派な階段付きの展望台が見えてきた。展望台は縄文杉の見物所であり、木の根元には行く事はできない。根を傷めないため立入禁止になっている。台上は人でいっぱい。食事をしている人、休憩の人、写真を撮る人でごった返していた。此処にいる大方の人達は此処より引き返すようでした。縄文杉の幹はゴツゴツでコブもたくさんあり、他の木も付着している大木でヤクスギの主としての貫禄十分である。

旧高塚小屋は、広葉樹林の大木の多い中に建っていた。此の辺にあるヒメシャラは大きく、こんな大木になるとは考えられなかった。又、ヒメシャラの幹には寄生植物は付着していない。その為、幹の綺麗さだけが目立つ。今が芽吹き始めで赤みを帯びていて綺麗である。標高を増すにしたがい、植生も変わってきて広葉樹が多くなってくる。杉も背丈が短くなり、横に枝を広げていて松の木に見違えそうなのもある。

宿泊場所の新高塚小屋に到着。テント泊の予定であったが、早く着いたのと小屋内にいた人も少なく、良い場所も取れたので小屋泊りに変更する。この時間帯ではテントも張られてはいない。水場も近くに二ケ所あり、水を背負って来なかっただけでも大助かりでした。身の回りの整理を済ませ外に出て休んでいると、ヤクシカが人に近づいてくる。食べ物を貰いに寄ってくる。人馴れ過ぎている感がある。

夕方になるとテントで小屋周辺はいっぱいになる。テントを張る所がなくなり、離れた所に張っていた人もいた。小屋にも、遅くなって入ってきてテントも持参していず、堂々と割り込みで泊まる厚かましい人もいた。今日は晴天であったが樹林帯の中を歩いたので、暑さでバテル事もなく一日目は全員順調に歩けた。

（追記・後藤隆徳）

1．前日のジャンボタクシーの運転手、早朝30分早くしたのにもかかわらず気持ち良く来てくれた。とにかくサービス満点。ひどい宿に『みやげ』を二つもあげた担当者は早計で、こちらに回すべきだった。
2．島は大量の降雨を利用した発電所が２ケ所あり、全てまかなっているとの事。
3．道路の回りには『田んぼ』が結構ある。３月頃田植えをして台風が来る前の７月中には刈り入れとの事。
4．軌道のマクラギは、長い年月にも意外と腐っていない。雨が多く水槽に入れた貯木の原理と同じとの事。
5．地元のガイドは年配の〔泊　隆章さん〕。（名刺もらった）道案内しながら色

々と説明してくれる。以前ＮＨＫが縄文杉より大きな杉を見つけたが、勝手にやった違反行為なので懲らしめで放映させなかったと言っていたが本当かナァ。

6．新高塚小屋は70名収容で満員。暗くなっても後から後から来る。隣の玄関の上がりかまちに座って寝た人に聞くと、テントを持たずに入山との事。そんなバカはいないと言ってやった。外にはテント無しの人がシートを広げて大勢寝ていた。

7．この日、機関紙で交流のある《はりま山岳会》の人達が、新高塚小屋に泊まったみたい。交流できず残念だった。

(上) 新高
小屋

(下) 小屋
りに
シカ が